



2007年3月期第3四半期決算 プレゼンテーション

平成19年2月13日
加賀電子株式会社(東証1部:証券コード8154)
〒113-8503 東京都文京区本郷2-2-9
TEL:03-4455-3131
FAX:03-3815-6807
<http://www.taxan.co.jp>

2006.3-2007.3

HIGHLIGHT

1

2007年3月期第3四半期決算ハイライト

(連結)2006年3月期第3四半期実績及び 2007年3月期第3四半期実績の業績比較

(単位:百万円)

	2006年3月期Q3	2007年3月期Q3	増 減	
売上高	69,369	70,205	836	1.2%
粗利益	8,158	8,239	81	1.0%
率	11.8%	11.7%	0.1%	
販管費	6,212	6,566	354	5.7%
営業利益	1,946	1,673	-273	-14.0%
経常利益	2,161	1,590	-571	-26.4%
当期利益	1,611	1,368	-243	-15.1%

主な増減のポイント

売上高：前年同期比 + 836百万円

海外グループ会社でのEMSの新規受注増や2006年7月からコダックの総販売代理店となったことにより、売上高は前年同期比 + 836百万円となった。

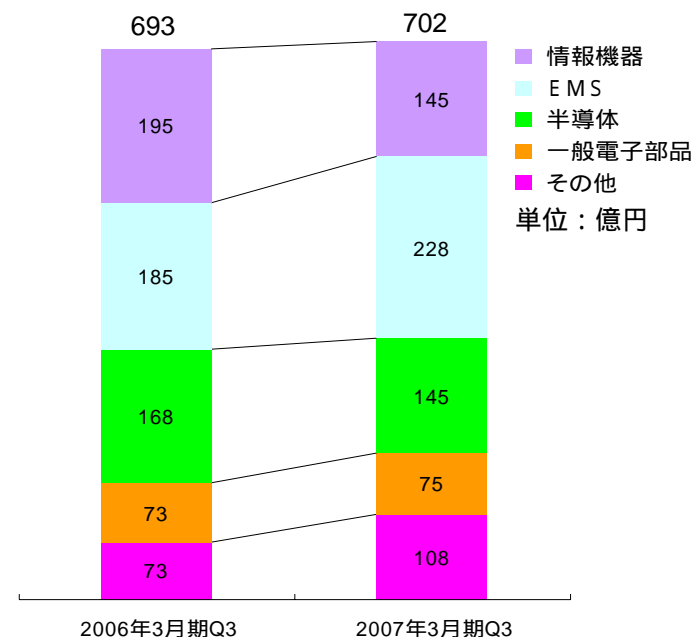
販管費：前年同期比 + 354百万円

コダック製品事業による人件費や販売費の増加のため、販管費は + 354百万円となった。

(連結)2006年3月期第3四半期実績及び 2007年3月期第3四半期実績の商品分類別売上高比較

(単位:百万円)

商品分類	売上高		増減	
	2006年3月期Q3	2007年3月期Q3	金額	%
情報機器	19,515	14,527	-4,988	-25.6%
E M S	18,452	22,819	4,367	23.7%
半導体	16,780	14,514	-2,266	-13.5%
一般電子部品	7,300	7,532	232	3.2%
その他	7,321	10,812	3,491	47.7%
計	69,369	70,205	836	1.2%



主な増減のポイント

E M S売上高：前年同期比 + 4,367百万円

海外グループ会社でのE M Sの新規受注増などにより、売上高の前年同期比は+4,367百万円となった。

情報機器売上高：前年同期比 - 4,988百万円

前年同期時に爆発的な売上をあげた米国製ポータブルミュージックプレイヤーの伸び悩みなどにより、売上高の前年同期比は-4,988百万円となった。

(連結)2006年3月期第3四半期9ヶ月通算実績及び 2007年3月期第3四半期9ヶ月通算実績の業績比較

(単位:百万円)

	2006年3月期Q3 9ヶ月通算	2007年3月期Q3 9ヶ月通算	増 減	
売上高	191,755	196,389	4,634	2.4%
粗利益	22,218	23,769	1,551	7.0%
率	11.6%	12.1%	0.5%	
販管費	15,590	19,270	3,680	23.6%
営業利益	6,627	4,499	-2,128	-32.1%
経常利益	7,109	4,630	-2,479	-34.9%
当期利益	4,952	3,014	-1,938	-39.1%

主な増減のポイント

売上高：前年同期比+4,643百万円

海外グループ会社でのEMSの新規受注の増加や加賀ハイテック(旧樫村)の新規連結(前年下期から)のため、売上高は増加したが、既存半導体の売上減少により前年同期比+4,643百万円にとどまった。

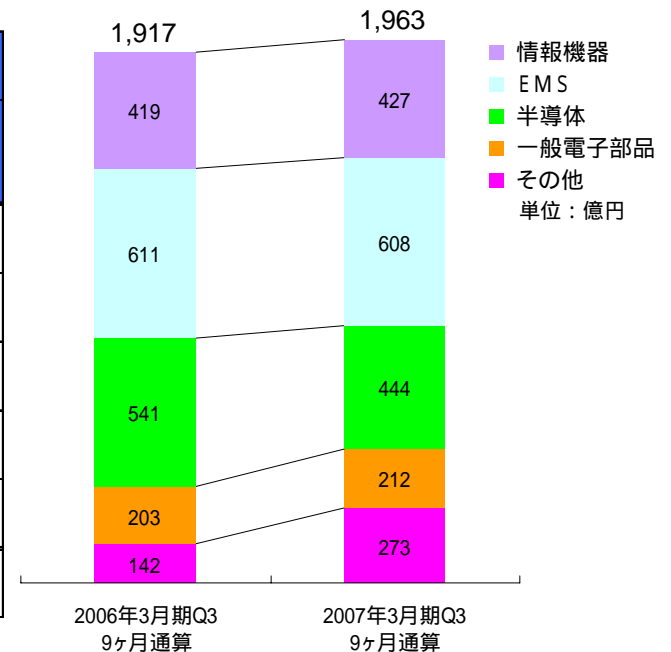
販管費：前年同期比+3,680百万円

旧樫村との新規連結による人件費増や加賀コンポーネントによるプロジェクト新規開発研究費増のため。

(連結)2006年3月期第3四半期9ヶ月通算実績及び 2007年3月期第3四半期9ヶ月通算実績の商品分類別売上高比較

(単位:百万円)

商品分類	売上高		増減	
	2006年3月期Q3 9ヶ月通算	2007年3月期Q3 9ヶ月通算	金額	%
情報機器	41,978	42,701	723	1.7%
EMS	61,065	60,826	-239	-0.4%
半導体	54,138	44,369	-9,769	-18.0%
一般電子部品	20,336	21,160	824	4.1%
その他	14,237	27,331	13,094	92.0%
計	191,755	196,389	4,634	2.4%



主な増減のポイント

「その他」売上高：前年同期比 + 13,094百万円

前下期より統合した加賀ハイテック（旧樫村）の売上の上期分が新たに計上されたことやコダック製品の国内総販売代理店となったことに伴い、写真機関連商材の売り上げ増などにより前年同期比 + 13,094百万円となった。

半導体売上高：前年同期比 - 9,769百万円

海外携帯電話メーカー向け半導体の減少やDRAM売り上げ減少により、前年同期比 - 9,769百万円となった。

EMS売上高：前年同期比 - 239百万円

海外での受注は増加したが遊技機器向けの納期ずれ込みにより、前年同期比 - 239百万円と伸び悩んだ。

(連結)2007年3月期中間期発表予測及び 2007年3月期第3四半期修正計画の業績比較

(単位:百万円)

	2007年度3月期 前回発表予想	2007年3月期 今回修正予想	前回発表予想 との増減	
売上高	280,000	268,000	-12,000	-4.3%
粗利益	34,200	32,400	-1,800	-5.3%
率	12.2%	12.1%	-0.1%	
販管費	25,900	25,700	-200	-0.8%
営業利益	8,300	6,700	-1,600	-19.3%
経常利益	8,700	7,200	-1,500	-17.2%
当期利益	5,300	4,500	-800	-15.1%

主な増減のポイント

売上高：前回発表比 - 12,000百万円

海外携帯電話メーカー向けの半導体売上の減少やDRAMの売上減少、アミューズメント業界の規制強化による新規受注の低下により、売上高予想を下方修正となった。

粗利益、営業利益、経常利益、当期利益の下方修正

売上高減少に伴い粗利益(-1,800百万円)、営業利益(-1,600百万円)、経常利益(-1,500百万円)当期利益(-800百万円)となった。

(連結)2006年3月期中間発表予想及び 2007年3月期第3四半期修正計画の商品分類別売上高比較

(単位:百万円)

商品分類	売上高		増減	
	2007年度3月期 前回発表予想	2007年3月期 今回修正予想	金額	%
情報機器	65,800	57,000	-8,800	-13.4%
EMS	90,200	85,200	-5,000	-5.5%
半導体	63,900	58,800	-5,100	-8.0%
一般電子部品	25,200	28,700	3,500	13.9%
その他	34,900	38,300	3,400	9.7%
計	280,000	268,000	-12,000	-4.3%

主な増減のポイント

情報機器売上高：前回発表比 - 8,800百万円

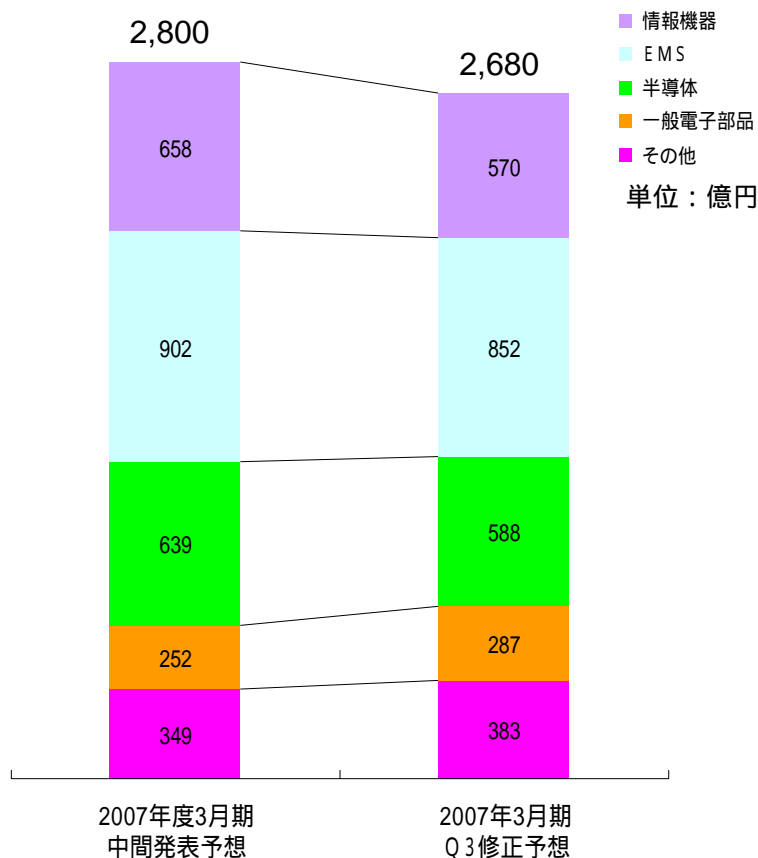
加賀ハイテックにおいて統合された加賀電子グループ内の情報機器部門のシナジー効果が発揮できなかったことや新規の自社ブランドプロジェクトの発売時期の遅れにより売上高の下方修正となった。

EMS売上高：前回発表比 - 5,000百万円

アミューズメント業界の規制強化による新規受注の低下により売上高の下方修正となった。

(連結)2006年3月期中間発表予想及び 2007年3月期修正計画の商品分類別売上高比較

セグメント別売上高構成



情報機器

加賀ハイテックにおいて統合された加賀電子グループ内情報機器部門のシナジー効果が発揮できなかったことや自社ブランドプロジェクトの発売延期のため売上高減。

EMS

アミューズメント業界の規制強化による新規受注の低下や新商品の納期ずれなどによる売上高減。

半導体

海外携帯電話メーカー向け半導体の減少や低収益であった海外半導体企業との取引減少による売上高減。

一般電子部品

2006年12月に子会社となった大塚電機社の売上や液晶TV、携帯電話の需要増により関連部材の受注増により売上高微増。

その他

コダック製品の国内総販売代理店化に伴い、写真機関連商材の売り上げ増による。

STRATEGIC TOPICS

2

2007年3月期第3四半期トピックス

「加賀ハイテック」が誕生。グループの情報機器部門の中核に。



平成18年10月、加賀ハイテック株式会社誕生

トピックス

幅広い販売チャネル、多様な取扱商品で売上増大を目指す。

旧樫村グループ子会社3社の整理により更なる収益拡大を図る。

物流費及び人件費の見直しで効率的な事業体制を確立。

共通システムの導入や不採算事業の統廃合。

シナジー効果による事業規模拡大と経営効率化による黒字化体質の構築。

ロシアへ現地法人設立。モスクワにて営業活動開始。

2006年11月 『KAGA IMPEX, LLC』を設立

成長著しいロシアを新規重点市場と位置づけ、
ロシアにおける営業拠点としてモスクワに設立。
エレクトロニクス分野に加え、機械・設備、工業原材料及び
生活関連分野での輸出入取引などの開拓・拡大に取り組む。

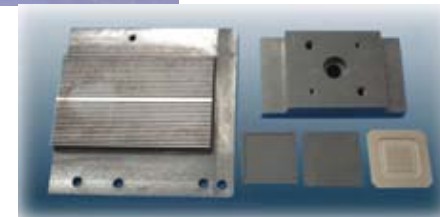
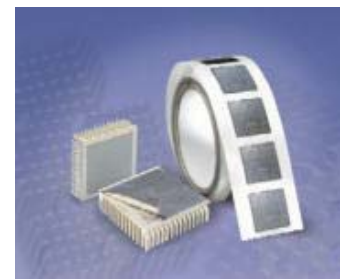


→ **新興市場への先行投資により、
新たな市場での優位性を確保する。**

大塚電機株式会社を子会社化 電子部品商社機能の強化

2006年12月 大塚電機株式会社の全株式を取得

大塚電機株式会社
1981年の設立の電子部品商社。
ワイヤハーネス、コネクタなど一般電子機器用部品を国内外にて販売。
新技術を用いた放熱材料に特化した営業活動を展開中。



→ **加賀電子グループの持つ販売網とのシナジー効果により
売上高50億円を目指す。**